

# 未充足の医療ニーズ 焦点

先進国における高齢化の進展や発展途上国での人口増加などにより、医療の重要性が増し続けていることは論をまたない。日本企業はアンメットメディカルニーズ（未充足の医療ニーズ）を満たすべく、革新的な医薬品や医療機器の開発に挑んでいる。従来と同じ発想で仕事をするのではなく、社内外の知見を結集してイノベーションにつなげる姿勢も求められる。

開発余地狭まる

「医薬品のターゲットになる分子が枯渇してきている」。協和発酵キリンで研究開発を担当する岡崎寛執行役員はこう話す。例えば、がん細胞の増殖や転移に関わる特定



製薬会社は部門間連携を進め、イノベーションを実現するための風土づくりを目指す（中外製薬の「ナレッジキープ」、同社提供）

連携で良い効果

の分子を見つけ出し、その働きを抑制する抗がん剤をつくることで、副作用が少なく効率的な治療につながる。だが製薬会社間の競争が進む中で新たな研究開発の余地は狭まりつつあり、「かつてほどの成果が出にくくなっている」

## 社内外で連携 知見を結集

「問題意識にたどり着いた要因の一つは、社内での議論がある。岡崎執行役員は中核研究拠点の富士リサーチパーク（静岡県長泉町）に赴任した際、「創業で世界に突出していくにはどうすれば良いか」とのテーマで研究員同士で意見交換

医療機器産業が成長するには日本発の診断・治療機器を創出し、世界市場を開拓していかなければならない。診断・治療分野では患者の負担を軽減させる低侵襲・非侵襲性が医療機関の大きなニーズになっており、国内の医療機器メーカーはその技術革新に力を注ぐ。

外科事業を拡大

消化器内視鏡で世界シェア7割を握るオリンパスは外科事業の拡大を目指している。自社ブランドの副鼻腔炎治療システムを開発し、耳鼻咽喉科領域の治療ビジネスに本

のが特徴だ。鼻腔内の組織を吸引する際に目詰まりを防ぐ機能などを新たに搭載し、組織を切除・吸引する機能を向上した。従来製品は吸引時に目詰まりすることが多く、手術中に鼻腔に挿入したブレード部を抜いて何度もクリーニングしていた。

新製品の普及に向け、「医師に操作方法をトレーニングする活動も始めた」（松本勲・オリンパスメディカルシステムズ外科マーケティング部長）。競合企業がひしめく世界最大市場の米国で、低侵襲機能の有用性を訴えていく。

線量モニタリング

東芝メディカルシステムズ（栃木県大田原市）はX線循環診断装置を使った血管内カテーテル検査・治療時に患者の被ばく線量をリアルタイムで管理できる「ドーズトラッキングシステム」を実用化した。3次元患者モデル画像にカラーマップで皮膚入射線量を表示する。「X

## 日本発 医療機器を創出

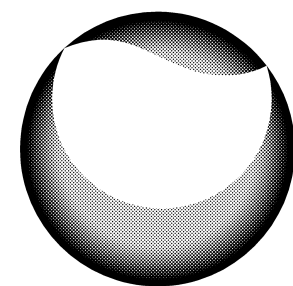
の正確なモニタリングは世界の医療現場で重要視されており、国内外でシステムの利用を提案していく。



# イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

医療技術の進歩とともに、生み出してきた医薬品の数々は、多くの人びとの命を救い、健康的な生活に貢献しています。しかし未だ、治療法が確立されていない疾病も多く存在するという現実。そこに、第一三共の大きな使命が残されています。革新的医薬品を創出し、多様な医療ニーズに応え、世界中の人びとの健康で豊かな生活を支えていく。私たちの情熱がやがて、ひとつでも多くの笑顔につながる、その日まで。

www.daiichisankyo.co.jp



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社



患者へのX線皮膚入射線量をリアルタイムで確認できる東芝メディカルシステムのドーズトラッキングシステム

## 低侵襲・非侵襲 革新のカギ



オリンパスが開発した耳鼻咽喉科向け治療システム